

中1 環境研修

入学して初めての環境研修が行われました。当日は天候にも恵まれて、各クラスそれぞれに多くの発見や経験をすることができました。生徒一人一人にとって素晴らしい学びの一日となりました。

はじめに、第一体育館にて和歌山大学養父志乃夫教授のお話を伺いました。

「この環境研修は一年で最も大切な日です。私たちの生活すべてのエネルギーの源である里山への理解を深めることが大切であり、先輩や仲間と一緒に生きていくための知恵を身につけて欲しいと思います。

里山には、生きた化石といわれているムカシヤンマをはじめ、ゲンジボタル、ヘイケボタルとともに野生のものが生息しています。どのようなところに生息しているのでしょうか？また、危険な生物や植物もありますが、無駄なものは何一つありません。里山を整備することは、生き物が共存できる環境をつくることにつながるのです。」

その他にも、里山の樹木を電気に変える取り組みや里山の木をどのように切れば再生するのかなど、科学・社会科学などを学びながら自然と上手く共存していくヒントがたくさんあることを教えていただきました。

H24年から長年にわたり、本校の里山管理に携わって下さっている先生からのメッセージを深く心に留め、各クラスのプログラムに分かれて活動しました。



A組は、ホタルの生育環境修復の作業をしました。
ホタルの餌であるカワニナが育ちやすい緩やかな水路の
流れを作るため、土嚢を配置しました。

初めての土嚢作り



B組は、棚田周辺の自然観察をしました。
下流の棚田を小さくすることで、収穫量を少なく見せ、
年貢の徴収量を減らす先人の知恵が伺えました。
虫好きな生徒は「受験勉強でカブトムシ採りを中断して
いたので、クヌギの香りが懐かしい」
虫が苦手な生徒も「シオカラトンボを捕まえた！」と、
楽しめたようです。



何つかまえた？



C組は、学校林の植物観察をしました。

いくつかの特徴をきいて、その木を探すクイズや、色んな葉っぱを集めて大きさや色の濃さで勝負をする『葉っぱジャンケン』など、楽しく里山の知識を教えてくださいました。

耳を澄ませて、里山でどんな音が聞こえるかも体験しました。

里山は常に変化している、とおっしゃっていた言葉が印象的でした。



じゃんけんぽん!



D組は、庭樹園の職人の方々にご指導頂きながら、ため池に沈殿した土砂の除去作業を行いました。

この作業は、里山を維持していく上で大切な作業の一つであることを教えて頂き、スコップを持つ手にも力が入っていました。



たまった泥を出そう!

